

稲作技術情報（幼穂形成期以降の低温対策）

令和2年7月22日(水)
福島県いわき農林事務所
福島さくら農業協同組合いわき地区本部

気温の低い日が続いており、今後も低温傾向が続く見込みです。
稲は幼穂形成期を迎え、低温に弱い時期に入っています。
幼穂を低温から保護するため、深水管理を徹底しましょう！！

1 日照不足と長期間の低温に関する福島県気象情報第2号 (令和2年7月21日 福島地方気象台発表)

福島県では、6月25日頃から前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなっています。6月25日頃から7月20日までの日照時間は平年の40%程度となっている所があります。また、冷たく湿った空気が流れ込んだため、7月12日から7月20日までの最高気温は、中通りと浜通りを中心に平年を3℃程度下回っている所があります。

この状態は、今後10日間程度は続く見込みです。

2 7月の気温の経過

7月に入ってから、最低気温が17℃を下回る日が続き、また日照時間も少ない日が続いています。

山間部では平坦部よりさらに気温が下がっている可能性があります。

表1 本年7月の日毎の気象データ(福島地方気象台HP)

日	小名浜アメダス				山田アメダス			
	気温(℃)			日照時間 (時間)	気温(℃)			日照時間 (時間)
	平均	最高	最低		平均	最高	最低	
1	21.9	25.0	20.0	0.2	23.9	28.6	22.0	0.3
2	23.6	29.9	19.1	6.8	24.7	29.1	21.1	7.2
3	22.1	25.8	18.7	0.8	22.0	27.4	18.1	2.5
4	19.1	21.3	18.1	0.0	19.2	21.5	17.8	0.0
5	19.1	20.7	17.9	0.2	19.1	20.4	18.4	0.0
6	20.3	22.7	18.8	0.0	21.3	24.5	18.7	0.0
7	21.2	25.2	20.0	0.2	23.3	26.8	20.9	0.1
8	21.0	23.0	19.8	0.5	22.0	24.8	20.0	0.2
9	20.9	25.2	18.5	0.3	23.6	28.6	20.0	0.6
10	21.5	25.8	19.0	0.2	23.3	27.3	20.5	0.0
11	21.8	24.3	19.8	0.0	23.5	26.8	21.3	0.0
12	20.8	24.4	18.3	5.0	21.2	23.6	17.9	2.0
13	19.3	21.8	17.7	1.8	18.9	21.2	17.7	0.0
14	20.0	21.8	18.5	0.0	20.0	22.0	18.0	0.0
15	19.8	22.5	16.8	1.0	19.9	23.6	16.9	0.0
16	18.8	22.8	16.9	1.1	18.6	20.7	16.9	0.0
17	19.5	21.3	18.0	0.0	19.5	21.8	17.6	0.0
18	20.2	22.7	19.1	0.2	20.2	22.3	19.1	0.0
19	21.9	26.0	19.2	5.1	23.4	30.0	19.3	4.4
20	21.6	24.9	19.6	2.6	21.8	25.4	19.3	0.0
21	20.8	22.5	19.4	0.1	21.1	24.0	19.7	0.0

注：太枠内は、平均気温が20℃未満、または、最低気温が17℃未満。

3 現在の水稻の生育ステージ

管内で作付されている水稻品種ではすでに幼穂が伸長している時期であり、低温に弱い時期になっているため、幼穂を保護するための水管理と病害の防除が必要です。

表2 管内の地域別・品種別の水稻幼穂長（県いわき農林事務所調べ）

	地区名	品種名	移植時期	調査日	調査時の幼穂長	幼穂形成始期	予想出穂期	出穂前日数（7月21日時点）
平坦部	平中神谷	コシヒカリ	5月5日	7月13日	3.0mm~4.0mm	7月11日~12日	8月1日	11日前
	平鎌田	コシヒカリ	5月28日	7月13日	0.2mm~0.4mm	7月14日	8月8日以降	18日前（8月8日出穂期の想定）
	平鎌田	天のつぶ	5月上旬	7月13日	1.6mm	7月13日	8月6日	16日前
	平下平窪	コシヒカリ	5月25日	7月21日	0.0mm~0.5mm	7月24日	8月16日以降	26日前（8月16日出穂期の想定）
	錦町	ふくひびき	5月20日	7月14日	2.0mm	7月10日	8月3日	13日前
	常磐地区	コシヒカリ	5月7日~12日	7月16日	3.0mm~4.1mm	7月8日	8月1日	11日前
中山間地	三和下三坂	ひとめぼれ	5月5日	7月13日	5.0mm	7月3日	8月1日	11日前
	三和下三坂	里山のつぶ	5月上旬	7月13日	10.0mm~20.0mm	7月6日	7月31日	10日前

4 今後の技術対策

(1) 低温対策 ～ 幼穂を保護するための「深水管理」～

- ・幼穂形成期から出穂開花期にかけては、低温（17℃以下）に弱い時期です。特に減数分裂期（出穂15日前～8日前）は花粉が障害を受けて不稔が発生するおそれがあり、最も危険です。
- ・幼穂形成期とその後の減数分裂期に低温に遭遇すると被害は増大します。深水管理で幼穂を保温しましょう。

●目標水深 幼穂形成期：10cm以上 減数分裂期：15cm～20cm以上

注意：事前に水尻や畦畔からの漏水がないかどうか確認しましょう。

(2) いもち防除 ～速やかな防除徹底で葉いもちで食い止めましょう！～

1) 葉いもち防除

- ・いもち病用箱施用剤を使用していない場合や、昨年葉いもち病が発生したほ場では、特に早めに葉いもちの予防薬剤を速やかに散布してください。
- ※いもち防除箱施用剤使用済みのほ場も、発生の有無を確認してください。
- ・葉いもちの発生を確認したら、早急に防除して穂いもちへの移行を予防しましょう。

2) 穂いもち防除 ～出穂までに葉いもちの防除徹底～

- ・粒剤を使用する場合は、適期に水面施用と散布後の止め水管理を徹底しましょう。
- ・散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期とその7～10日後に防除しましょう。

(3) カメムシ防除 ～低温・寡照で割れ粃が発生しやすい状態です～

出穂14日前までに畦畔の草刈りを完了し、出穂後は薬剤防除を徹底しましょう。

表3 いもち病・カメムシ類防除薬剤の例

	農薬名	使用時期	使用方法・希釈倍率・散布液量	使用回数
いもち病	コラトップ粒剤5	●葉いもちには、初発10日前～初発時 ●穂いもちには、出穂30日前～5日前まで	散布・3～4kg/10a	2回以内
	キタジンP粒剤	●葉いもちには、初発7日前～初発時 ●穂いもちには、出穂20日前～7日前まで	散布・3～5kg/10a	2回以内
	カスミン液剤	●穂揃い期まで	散布・希釈倍率1,000倍	2回以内
	ノンプラスフロアブル	●収穫7日前まで	散布・希釈倍率1,000倍・60～150リットル/10a	2回以内
カメムシ類	キラップフロアブル	●収穫14日前まで	散布・希釈倍率1,000～2,000倍・60～200リットル/10a	2回以内
	スタークル液剤10	●収穫7日前まで	散布・希釈倍率1,000倍・60～150リットル/10a	3回以内
	スミチオン乳剤	●収穫21日前まで	散布・希釈倍率1,000倍・60～150リットル/10a	2回以内

●問合せ先：県いわき農林事務所農業振興普及部（電話：24-6161）または最寄りのJA各営農経済センター